2010年度・研究旅行奨励制度　【グループ旅行】

名　前	渕上真衣 川崎裕美	研究テーマ	イタリアの船大工職人（マエストロ） ～船の歴史と変遷を知り、職人の思いを通して イタリアの伝統への誇りと出会う～
目的地	国　名		地域・都市名
	イタリア		ヴェネチア、フィレンツェ、ローマ

研究旅行の目的

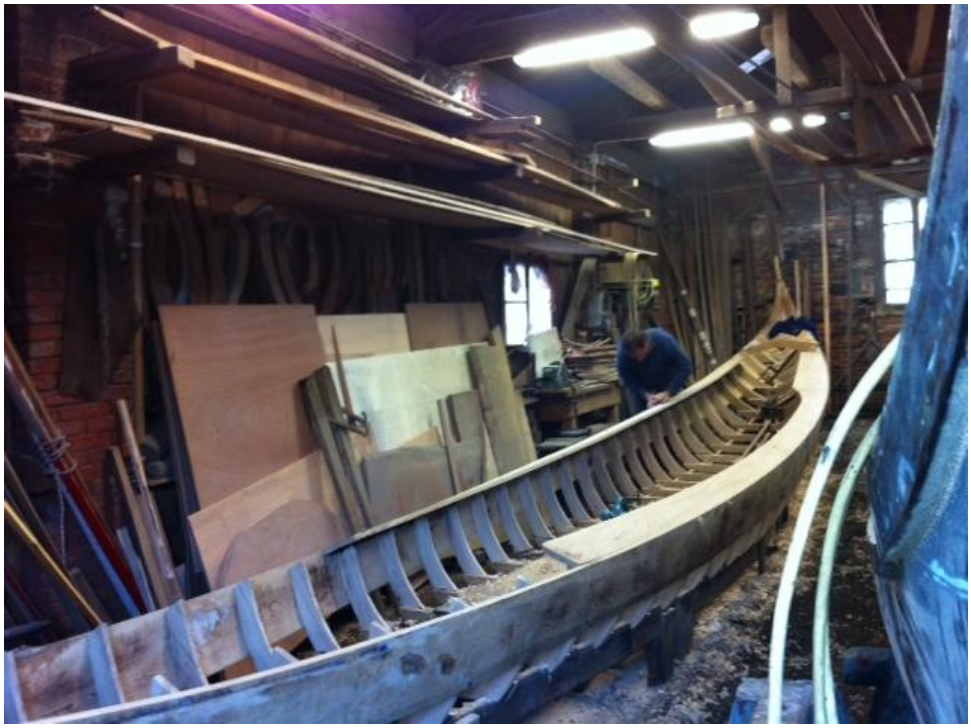
伝統を捨てない文化を守り続けてきたイタリア。中でも私たちが注目したいのは、今でも現代社会のシンボルとも言える自動車さえなく、人々は昔から移動に船を利用しているヴェネチアである。古代から交易や軍事、ラグーナでの漁業、そして物や人の運搬のために…とさまざまなタイプの船が作られてきた。そしてたくさんの歴史をたどって今日に継承されてきた船、それがゴンドラなのである。しかもゴンドラは機械を使って何から何までも大量生産の時代にもかかわらず、現代まで一隻一隻職人による手作りで引き継がれてきた。左右対称の船体のカーブは職人の目や感覚で覚えられ、伝統ある高度な技術が求められる設計図のない船といわれている。今回のこの研修でヴェネチアを中心に船の歴史や変遷などを博物館や絵画の中から読み取り、そのことを踏まえたうえで、どのように今日に至ったかを探り、今後の継承活動を調査するとともに、施設や工房を訪れて彼らに直接話を聞いてみたい。たくさんの時間と費用をかけて、いまもなお彼らが伝統を守る理由とは何なのか。先祖から代々受け継ぎ今もなお現代に繋げているマエストロの意思、思い、誇りとは…そしてかつての「アドリア海の女王」の時代、商業や生活のためだったゴンドラが、現在では形を変え観光化してしまったことについてどう思っているのか、彼らの本音も探りたい。

期待される成果

私たちがこの研修旅行で調査したいと考えているのは、人の手によって現代まで引き継がれてきた船の伝統と、それを守ろうと活動してきた人々である。日本ではゴンドラの伝統にはほとんど触れられることはなく、観光客向けのヴェネチアの名物的なものとしてしか取り上げられていない。しかし、現代的な形のボートも増え、環境や産業の変化に伴って人口も減少し、船乗りたちも少なくなり伝統的な木造の船も消えていく…そんな状況の中、伝統的な船の文化を残したいと船の研究や修復、再現に情熱を注いでいる人々や職人がいるのだ。現地に行かないと調査できないことや、日本では手に入らない文献、面と向かって彼らの口から語られる言葉は文献やインターネット上に公開されている情報よりも私たちに多くのことを教えてくれるだろう。最盛と衰退を繰り返しながらも大量生産、大量消費という時代の風潮にも流されることなく、ヴェネチアの伝統が今日も継承されているということは、モノを作る技術と同時に、それらを作る過程で生まれる“モノ”への熱い思いや、職への誇りや自信もまた世代を超えて継承されているように思われる。わたしたちが守るべきものとは。「オンリーワン」がもつ意味とは。これらの答えを知ったとき私たちは人生のマエストロとなっているかもしれない。そしてかつて脱亜入欧を目指して先急ぎ古いものを捨て新しいものばかりを次々と取り入れてきた日本が忘れていた、伝統に対する意識やこだわりを思い起こすきっかけになると思う。

旅行日程表　　[　30 日間　]		
1 日目	ローマ着　ローマ宿泊	
2 日目	古代ローマ時代の船の博物館 Museo delle navi romane 調査	帝政時代以来の船の型や古代の船大工の造船技術を知る
3 日目 **4 日目**	ヴァチカン博物館 (エジプト美術館を中心に)　調査	古代ローマ時代から 400 年もの間支配し交易のあったエジプトの作品を中心に、絵画などの美術作品から古代の船の姿を調査
5 日目	ミラノに移動	
6 日目	水上飛行機基地	トラヴィという人物がゴンドラに魅せられ、ヴェネチアのゴンドラ職人トラモンティンさんの造船所をも訪れ、自分の作業所で自らで作ったゴンドラがあるという水上飛行機基地に行き調査 本人とのインタビューも予定している
7 日目	ヴェネチアへ移動	
8 日目	国立マルチャーナ図書館	参考になる文献の収集 気に入った文献は 21 日目で書店にて購入し資料とする
9 日目	アルセナーレ（国営造船所）Arsenale	現在博物館館長にインタビュー交渉中
10 日目	船舶史博物館 Museo Strico Navale 調査	現在のゴンドラに至るまでの歴史を調査
11 日目	ドゥカーレ宮殿　調査	絵画に描かれている船から当時の船の位置づけなど考察する
12 日目	アカデミア美術館　調査	絵画に描かれている船から当時の船の位置づけなど考察する
13 日目	クエリーニ・スタンパリア美術館	14~18 世紀のヴェネチア派絵画が展示されており、当時のヴェネツチアの風俗や暮らしぶりが描かれている絵画、特にガブリエル・ベッラ「ヴェネチア庶民の祝祭の様子を描いた連作」からゴンドラの位置づけを読み取る
14 日目	カ・レッツォーニコ	18 世紀のヴェネチアの風俗、文化を伝える博物館であり、特に当時の風俗を描いたピエトロ・ロンギの絵画、カナレットによる風景画より考察する
15 日目	街角インタビュー(1)	地元の人々にとってゴンドラとは一体どういうものなのか、どういう位置付けがされているのか調査。アンケート用紙を作成予定
16 日目	コッレール博物館	14～18 世紀のヴェネチアの歴史と人々の暮らしぶりをしのばせる展示品が多く、特にそこに展示されている「ゴンドラの図」に注目したい
17 日目	サント・ステーファノ教会　調査	船底構造を用いて木で造られた天井を調査
18 日目	El felze　訪問･調査 Saverio Pastor 氏にイタリア語でインタビュー	現在交渉中 El felze はゴンドラの製作に貢献する職人連合であり、彼らのゴンドラ継承の活動を調査
19 日目	ジルベルト・ペンツォ工房　訪問･調査 Gilberto Penzo 氏にイタリア語でインタビュー	現在交渉中 彼はヴェネチアの船研究の第 1 人者と言われている
20 日目 **21 日目**	Domenico Tramontin e Figli　訪問 Roberto Tramontin 氏にイタリア語インタビュー	現在交渉中 Tramontin 家はゴンドラの設計を改良し現代のデザインにした
22 日目	Squero di San Trovaso　訪問･調査	現在交渉中

23 日目	イタリア語でインタビュー	ヴェネチアで現存する最後の造船所
24 日目	キオッジャへ 南ラグーナ博物館	キオッジャやその周辺からの品を集めた考古学・民俗学博物館であり、舟や造船過程の展示を調査
25 日目	街角インタビュー(2)	地元の人々にとってゴンドラとは一体どういうものなのか、どういう位置付けがされているのか調査。
26 日目	ブラーノ島　ムラーノ島 レース、ガラスの職人の技も見学	他の職人も知ることでもともと貴族や観光向けの工芸品を作る職人とゴンドラ職人との意識の違いを考える
27 日目	フィリッピ書店 Libreria Editrice Filippi ゴルドーニ書店　Libreria Goldoni	復刻の古書なども扱っており、イタリア文献による調査からも船の継承を調査　「L'arte dei remeri」(2007 発売)参考資料候補
28 日目	フィレンツェへ	アルノ川にあるというゴンドラを調査 ヴェネチア以外の場所にあるゴンドラ
29 日目	ローマへ移動　ローマ発	
30 日目	日本着　帰国	



【写真１】　ヴェネチアのゴンドラ工房と船大工職人

【写真２】ヴェネチア大運河

【写真３】　ヴェネチアの小運河とゴンドラ